

ブラジル・ペロタス市との 姉妹都市提携50年を振り返る

石川県珠洲市教育長 田中 栄俊

日伯間で最初の姉妹都市提携

珠洲市には今日まで、姉妹都市もしくは友好都市として提携し交流を続けてきた国内外の市町がいくつかあります。国内では鳥根県（現合併で松江市）の美保関町（現合併で佐渡市）、新潟県佐渡島の小木町（現合併で佐渡市）、北海道の江差町、そして国外ではブラジル連邦共和国のペロタス市です。

特にペロタス市との姉妹都市提携については、その歴史も長く昨年50年の節目を迎えました。珠洲市が姉妹都市提携を結んだのは1963年であり、ブラジル連邦共和国の都市と締結したのは、県内はもとより日本で初めての画期的な出来事として伝えられています。

現在、日本とブラジルの自治体が姉妹都市として提携しているのは60件近くになっていますが、日本で最初であったということから、駐日ブラジル大使館は珠洲市に注目しており、1966年に当時の駐日ブラジル全権大使であったソアーレス氏が珠洲市を訪問されたことがそのことを物語っています。

この提携の橋渡し役となった人物が、当時の駐日ブラジル大使館員のヴィニョーレス氏です。ヴィニョーレス氏は当時、縁があって珠洲市立大谷小学校の校歌を作曲し、当地に深い愛着を持つようになります。そして珠洲市をたびたび訪れ、同氏の生まれ故郷であるブラジルのペロタス市との姉妹都市提携を提案し、両市議会の議決を経て、初の外国姉妹都市提携が成立したのです。議決書には「珠洲・ペロタス両市間の理解と親睦を深め、文化の交流及び経済の提携を盛んにし、もって両市民の福祉の増進と日伯両国の友好関係を深め、ひいては世界の平和に貢献するためである」と記

されています。

ペロタス市はブラジルの南部に位置し、ウルグアイに近い人口35万人ほどの中核都市で、連邦大学や国立農業研究所などの歴史的建造物も多く、商業や農業および文化の中心地となっています。また毎年6月に開催される「フェナ・ドセ」と呼ばれる菓子博覧会は、ブラジル国内でも有数のイベントとなっています。このようにペロタス市は珠洲市と比べて人口も多く大きな都市ではありませんが、両市を文化的交流、経済的交流、人的交流など固い絆で結ぶ礎となり、交流活動の節々で両市をつなぐ大きな役割を果たしてきたのがヴィニョーレス氏という人物なのです。

提携後の軌跡

両市は提携直後から、国旗や市旗の交換や小中学校の児童生徒の作品交換から始まり、半世紀にわたる長い期間にさまざまな交流が行われてきました。中でも特に人的交流の観点から主なものを紹介します。

- 1966年 駐日ブラジル大使のソアーレス氏およびヴィニョーレス夫妻が珠洲市を親善訪問し、市民挙げての盛大な歓迎を受ける。大谷小学校ではヴィニョーレス氏の校歌作曲記念碑が建立され除幕式が行われる。
- 1988年 珠洲市長および市議会議長が初めてペロタス市を親善訪問し、ペロタス市関係者およびペロタス日伯文化協会の方々と交流を深める。
- 1991年 ヴィニョーレス氏が長女を同行し、同氏の記念碑が建立されている珠洲市立西部小学校（旧大谷小学校）創立20周年の記念式典に臨席する。
- 1992年 珠洲市中学生交流団10人をペロタス市

へ派遣する。児童生徒の交流は初めてのことであり、この親善訪問は「夢の実現」と称賛される。訪問を記念しペロタス市内に「珠洲公園」(1ヘクタール)が開設される。

- 1996年 ブラジルにおける日本酒醸造プロジェクトに関する現地調査のために、高い技術を誇る能登杜氏を調査団としてペロタス市へ派遣する。
- 1998年 ペロタス市より日本酒醸造の技術研修員として4人が珠洲市に派遣され、当地の酒造会社で3か月間研修を行う。
- 2008年 珠洲市長、市議会議員、教育長の3人がブラジルのサンパウロ州開催の「ブラジル・日本移民百周年記念式典」の出席に合わせ、ペロタス市を親善訪問する。ペロタス市では臨時議会が開催され、酒造技術を振興させる協定書に調印し、あらためて交流の絆を確認することとなる。

また訪問を記念し新たな日本式庭園「珠洲公園」が開設され、除幕式が行われる。



2008年「珠洲公園」開園式

姉妹都市提携50周年記念事業

両市の交流50年の節目にあたる昨年、姉妹都市提携をした9月17日に合わせ、この交流に大きな役割を果たしてこられたヴィニョーレス夫妻を珠洲市に招待し、歓迎セレモニーと市民交流会を開催しました。歓迎セレモニーでは、市長をはじめ市議会議員、各種機関の代表者など多数参加のもと、ペロタス市長のメッセージの紹介など今日までの交流を振り返り、未来に向けてさらなる発展を誓い合いました。併せて50年の節目を記念し珠洲市役所庁



姉妹都市提携50周年記念レセプション

舎前に本市を代表する花き「能登キリシマツツジ」を植樹し、永遠の友好のシンボルとなるように祈念しました。



姉妹都市提携50周年記念植樹

50年からの新たな出発

この50年の交流を支えてきたなかに、児童生徒の英語による文通交流活動があります。長年にわたり、この活動を支えてきたのがペロタス市立学校の英語教師であるテレジーナ氏や幼児英語教育の指導者であるソーニア氏であり、本市においては英語教諭であった中明子教諭や小学校の文通交流を支えた塚田司郎教諭であります。未来を支えるのはいつの時代も子どもたちであり、グローバルな社会で活躍できる人材の育成が求められています。ブラジル連邦共和国は、多くの日本移民を受け入れ、現在100万人を超える日系人の方々が各界で活躍されています。日本とブラジルはほかの諸外国に見られない深い関係があります。日本とブラジルを結ぶ架け橋として先駆的な役割を果たし、今なお珠洲市とペロタス市が姉妹都市として成立していることは、私たち珠洲市民の誇りでもあります。

現在、日本国内においても多くの日系ブラジル人の方々が生活をされています。高度情報化の進展やグローバルな社会となり、今後人的交流もますます盛んになることでしょう。2011年、本市を含む「能登の里山里海」が、佐渡とともに日本で初めて世界農業遺産の認定を受けました。このことを含めペロタス市民をはじめ、多くのブラジルの方々に強く関心を持っていただくように交流活動をさらに質の高いものにしなければならないと決意を新たにしています。